

かわさき かわら版

2012秋号 No.7

CONTENTS

- 「健康で長生きしましょう」
副院長、内科部長（総合内科学1教授） 沖本 二郎

- シリーズ 元気をつくるNo.3
- 「腎臓を守ることは全身の血管を守ること」
人工透析センター長 大城 義之

- シリーズ チーム医療No.3
- 「糖尿病サポートチーム『DMT』の紹介」
栄養部主任（管理栄養士） 若林 弘子

- 新病院 新築工事ニュースVol.2
- 「新病院着工に向けて
歴史ある小学校の記憶を後世に」
大学事務局総務部新病院開設準備室

- シリーズ よくある医療制度の疑問No.3
- 「DPC (DPC/PDPS) って何？」
医事課 係長 佐藤佳美

「健康で長生きしましょう」

① 健康とは？

私達は、この世に生を受けて最後の日を迎えるまで健康に過ごしたいと願っています。病院は、それをお手伝いするのが使命です。

ところで、健康って何でしょうか？

「医学大事典」によると「健康とは、諸器官が病気や異常の形跡がなく機能する状態」と書かれています。

世界保健機構(WHO)は、「健康とは身体的、精神的ならびに社会的に全面的に良好な状態にあることをいい、単に疾病がないとか虚弱でないというだけではない」と定義しています。

私が小学5年生(東京オリンピックの前年)の時、担当の先生がこの文章を黒板に書きました。社会的に良好な状態とは、貧乏は健康でないという意味ですと教えてくれました。日本中が貧しかったのでしょうか。

東洋医学の健康の定義は、「体内の諸臓器、器官に無意識であること」としています。私たちは、日頃、自分の足首の存在に気づきません。しかし、足首を捻挫しますと、その日から足首が気になります。

このように朝起きた時、頭のとっぺんから足のつま先まで意識しないのを健康といいます。



副院長
内科部長(総合内科学1教授)

沖本二郎

② のんびり、気楽な暮らしで長生きするの？

最近、アメリカで1921年から1500人の小児を90年間追跡調査した結果が発表されました。

その結果、のんびり、気楽な暮らしでは短命になり、最も健康で長生きできたのは、仕事に熱心に打ち込んだ者であることが分かりました。

男性は離婚せずに生活すると長生きし、離婚すると短命になります。しかし、女性では、離婚してもしなくても寿命に影響はなかったそうです。

③ 長生きする食事療法は？

東洋医学では、最も長生きする食事療法は共食(家族団欒で仲良く食事をする)と教えます。

④ 結局どうすればいいのでしょうか？

男性は、一生懸命働いて金を稼ぎ、良き妻を迎えて仲良く暮らせば長生きできるようです。

女性は、働き者でありながら、夕食までには帰ってくる夫に嫁げば長生きするようです。皆様は、いかがですか？



シリーズ 元気をつくる No.3 (No.1~No.4)

「腎臓を守ることは全身の血管を守ること」

人工透析センター長 大城義之



蛋白尿の出現は、以前は腎機能低下の指標とされていました。その結果、原疾患の治療により蛋白尿を減らすことが透析への移行を阻止するためには重要です。また蛋白尿以前に見られるアルブミン尿の出現は、糖尿病性腎症の早期の指標として知られています。現在もこの2つの事柄にはそれらの意味も十分にあります。近年、蛋白尿の存在が血管の内皮機能障害の指標とされ、蛋白尿の存在および腎機能の低下は、心臓病や脳を含む血管病の危険因子とされており、実は蛋白の中でも分子量の小さいアルブミンが尿中に出現する時期からこれらの危険が増加していることが報告されています。それではどうすれば蛋白尿やアルブミン尿を減らすことができるのでしょうか。蛋白尿が出る原疾患(慢性腎炎や糖尿病)の治療は当然行うこととして、蛋白尿を減らすことができる共通の治療方法があります。一つは血圧を下げることです。腎臓は血圧が上昇するだけで、蛋白尿が増える傾向があります。そのため、130/80mmHg未満を目標に、十分に血圧を下げる必要があります。もう一つは蛋白制限です。蛋白質を多く取るとそれだけ腎臓に負担がかかり蛋白尿が増えます。蛋白質を制限すると腎臓への蛋白負荷も減らすことができ、蛋白尿は減少します。日本は戦後豊かになり、たくさんの塩と蛋白質を摂取できる環境となりました。蛋白尿の増加による心臓病、血管病の発症は、一部はその代償かも知れませんね。





シリーズ チーム医療No.3 (No.1~No.4)

糖尿病サポートチーム

『DMT (Diabetes Mellitus Team)』の紹介

栄養部主任(管理栄養士) 若林弘子



国民健康・栄養調査の結果から40歳以上の3人に1人は糖尿病の疑いがあるといわれています。糖尿病の診療に加え、合併症の治療や手術の目的で、糖尿病の入院患者さんが増えています。患者さんの生命予後とQOL (Quality Of Life) の改善・満足度の向上のため、糖尿病専門の医師をはじめ、糖尿病に関する専門性を持ったスタッフが療養指導にかかわることが必要です。

当院では月曜日から金曜日の毎日午後、糖尿病教室の案内が院内放送されているのをご存知ですか？糖尿病の教育・指導の一環として、入院・外来を問わず、患者さんやご家族を対象にDMTのスタッフ(医師、保健師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士)が毎日交代で担当しています。

教室で使う資料冊子は、スタッフ手作りで大変分かりやすい内容です。生活習慣が大きく影響する糖尿病では日常生活そのものが治療につながります。申し込みは不要ですのでぜひご参加ください。

糖尿病教室スケジュール 場所: 東3階カンファレンス室

曜日	第一週(14:00~15:00)		第二週(14:00~15:00)	
月	医師	糖尿病とは	医師	合併症について
火	管理栄養士	食事療法について	臨床検査技師	糖尿病の検査
水	管理栄養士	食品交換表・献立	管理栄養士	外食・嗜好品について
木	看護師	日常生活・フットケア	保健師	自己血糖測定・シックデイ
金	理学療法士	運動療法について	薬剤師・医師	薬・インスリン・まとめ

教室以外に季節ごとに食事会を開催しています。医師からテーマに沿った講義、管理栄養士は食事療法と各職種が入れ代わりで療養のポイントを説明しています。食事は季節の食材を使用し、約500k calの低エネルギー量の献立にしています。自分の足や爪の状態を見たり、実際に運動をして出来るだけ参加型の食事会になるようスタッフが協力しあっています。この食事会は事前の申し込みが必要です。次回は来年2月に予定しています。

集団指導以外に、外来通院されている方や入院中の患者さんに個別に説明・指導を行うこともあります。5月からは糖尿病性腎症の進行程度に応じ、医師・看護師・管理栄養士が中心になり糖尿病透析予防指導を外来の患者さんに行っています。

本年度は活動の輪を広げ、11月の糖尿病週間(11月13日(火)~11月15日(木))に、一般の方に広く糖尿病を知ってもらうための行事「糖尿病週間 IN 川崎病院」を計画しています。血糖値や血圧測定・身体計測・フットチェック・運動機能評価・動脈硬化の程度を計るABI検査・お薬相談・栄養相談などスタッフが準備を進めています。どうぞお楽しみに。

糖尿病は治すのではなく、コントロールしていく病気です。DMTスタッフ全員で患者さん中心の「チーム医療」に関わりたいと思っています。



新病院着工に向けて 歴史ある小学校の記憶を後世に

川崎医科大学附属川崎病院の新病院建設予定地である、岡山中央南(旧深根)小学校は、長い歴史のある小学校でした。平成24年2月からの小学校跡地の既存校舎等解体工事が始まる前に、小学校の敷地内に植えられていたソテツ、クスノキなどの樹木、そして、記念碑や校舎内記念物等を安全な場所へ移設・保管し、将来、新病院敷地内に、可能な限り保存・展示することを検討しています。



▲記念碑(深根固根)



▲安全な場所に移植後のソテツ



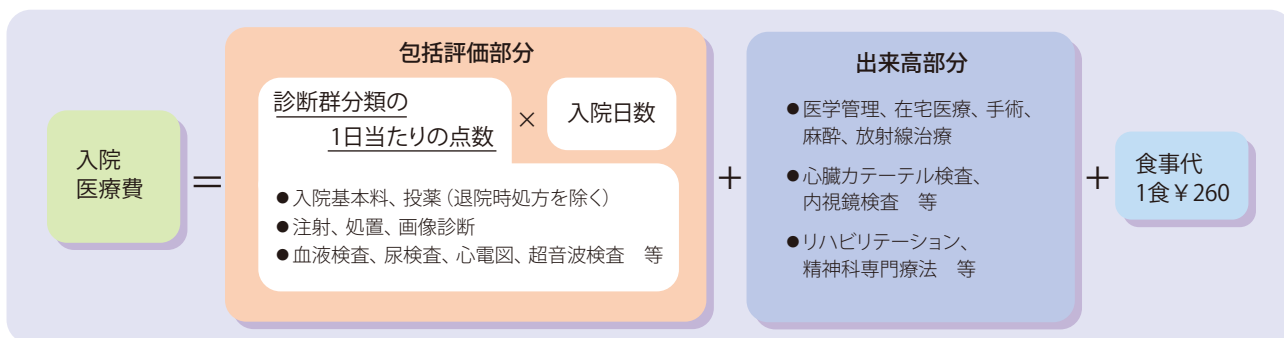
シリーズ よくある医療制度の疑問No.3 (No.1~No.4)

DPC (DPC/PDPS) って何?

(Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System)

医事課 係長 佐藤佳美

病気の種類と診療内容によって「DPC」と呼ばれる分類に基づいて、国の定めた1日当たりの定額部分と出来高による部分を組み合わせて入院医療費を計算する方法です。



同じ病名で入院しても、手術や処置の内容、入院期間等によって入院医療費は異なってきます。患者さんは健康保険を使用して自己負担分をお支払いいただくことに変わりありません。

以下の場合にはDPCの対象となりません。

- 厚生労働大臣が定めた処置・手術を行った場合や薬剤等を使用する場合
- DPCには分類された病気の種類によって包括診療日数が決められているため、その日数を超えて入院する場合
- 保険適用外の医療を受けられる場合(自費診療・自賠責・労災 等)
- 一般病棟以外(回復期リハビリテーション病棟)に入院する場合

お問い合わせ先… 医事課 入院担当(内線3203)



川崎医科大学附属
川崎病院

〒700-8505 岡山県岡山市北区中山下2-1-80
TEL. (086) 225-2111 (代) FAX. (086) 232-8343

病院庶務課庶務係 (内線) 3316, 3318
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/kawasakihp/>
E-mail: kwsyomu@med.kawasaki-m.ac.jp

